

# 研究主題:「小・中・高をつなぐ理科教育のありかた」

## 主題設定の理由

石川県理科教育研究大会は、理科教育の振興のため、60年以上にわたり授業研究を進めてきた。さらにその研究を小中高が協力し、連携を図りながら進めている。この小から中、中から高へと理科の学びをつなげていくことは、子供の科学する力の育成を一層高めるものである。それとともに本県のこの取組は全国的に見ても希有なものである。そのため、今年もこの伝統を受け継ぎ、今大会も主題を継続して取り組むものとする。

## 副題:「理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究する理科学習」

### 副題設定の理由

中央教育審議会は、令和3年1月に『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)を取りまとめた。その中で、子供たちに求められる資質・能力として、「文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」などが挙げられた。

学校教育においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることを求められている。つまり、目の前の事象から解決すべき課題を見出したり、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出したりといった、学習指導要領の着実な実施を通して、子供が科学的に探究することができる資質・能力の育成が必要であるといえる。

学習指導要領では、理科の目標として、自然に親しみ(自然の事物・現象に関わり)、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成としている。それは、自然の事物・現象と出会い、そこから問題を見出し、問題について理科の見方・考え方を働かせながら探究し、問題について科学的により妥当な考えをつくり出すという、科学的な探究に必要な資質・能力を身につけることが大切であると考えられる。この目標の実現には、子供が学習において、理科の見方・考え方を働かせ、探究の見通しをもって観察、実験を行うことが重要である。

そこで、副題を「理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって科学的に探究する子の育成」とし、どのように理科の見方・考え方を働かせるか、どのように見通しをもった学習展開にするかを重点として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を追究していくこととする。

なお、今年度の重点は以下の通りとする。

### 【今年度の重点】

- 重点① 子供が理科の見方・考え方を働かせるための工夫
- 重点② 見通しをもって科学的に探究するための学習展開の工夫